



The Baseball Hall of Fame and Museum

公益財団法人 野球殿堂博物館

平成26年 野球殿堂入り記者発表

館長 廣瀬 信一

1月17日(金)午後3時より野球殿堂博物館の殿堂ホールにおいて、平成26年の「野球殿堂入り」記者発表が行われました。競技者表彰プレーヤー表彰では、近鉄や米大リーグ・ドジャースなどで日米通算201勝を挙げた野茂 英雄さん、西武などで通算2157安打、437本塁打を放った現ソフトバンク監督の秋山 幸二さん、横浜、米大リーグ・マリナーズで日米通算381セーブをマークした佐々木 主浩さんの3人が選ばれました。残念ながら、エキスパート表彰では選出されませんでした。特別表彰からは、元早大監督の故・相田 暢一さんが選ばれました。相田さんは太平洋戦争の動乱の中で学生野球の存続を願い、戦後の発展に繋げた方で、マネジャーの時には学徒出陣壮行試合の「最後の早慶戦」の開催に尽力されました。尚、野茂さんをご自身が代表を務めるNOMOベースボールクラブ主催の少年野球大会NOMO CUP開催のため、兵庫県豊岡市での記者会見となりました。

井原 敦理事長から本年度野球殿堂入りの発表、挨拶に続き、永瀬 郷太郎競技者表彰委員会代表幹事より競技者表彰委員会、また有本 義明特別表彰委員会議長より特別表彰委員会の選考過程について各々報告がありました。続いて、殿堂入り通知書の授与が行われ、顕彰者の挨拶が行われました。まず、プレーヤー表彰の秋山さんは「もっと(殿堂入りに値する)先輩が多くいると思うが、入れていただいた。人生は一回しかない中で、野球しかやっていない。認められたのはうれしい。」と話され、次の佐々木さんは、「小さい頃は体が弱くて。それで(克服のために)始めた野球で、まさかこんなすばらしい賞をいただけるとは」と喜びをかみしめていました。最後に相田さんのご長男・暢正さんのぶまさから、「もし、父がこの場にいたら戦地で亡くなった方の思い、復興に尽くされた方の願いに気持ちを寄せていたと思う。墓前に報告したい」としみじみ話されました。また、野茂さんからは野球殿堂入りに選出していただいたことへの感謝と「今後はNOMOベースボールクラブを通じ、野球界の発展につながる活動に取り組んでまいります。」とのコメントをいただきました。

続いてのゲストスピーチで、秋山さんと西武時代にチームメートであった東尾 修さん(2010年野球殿堂入り)は、「佐々木君や野茂君もいるけど、今の時代で30歳くらいであればFAして、野手としてメジャーで凄く活躍した選手。」と評し、さらに「西武の黄金時代の戦友として素晴らしい、誇れる選手だった」と当時を懐かしんでおられました。400勝投手で、元ロッテ監督の金田 正一さん(1988年野球殿堂入り)は、佐々木さんが少年時代「ロッテ」の友の会会員で握手をした思い出や、プロ入り後ハワイで偶然会ったときに、サンダル履きで歩く姿を見つけ、ケガをするもとなるからすぐに靴を履いて歩きなさいと注意したエピソードなどを披露されました。相田さんの後輩で稲門倶楽部元会長の本村 政治さんからは、野球のできなかった戦時中、相田さんはバット300本、ボール300ダースを買い集め、合宿所に保存して備え、それらの道具は自校のみならず各校にも配布したことが、戦後の早い時期の野球復興に繋がり、裏方に徹した人でしたと話されました。野茂さんには、元ドジャース社長のピーター・オマリーさんから、「まさに殿堂に相応しい。初めて会った1995年から、一流の打者に立ち向かうプロ意識と勇氣に感嘆していました。ドジャース関係者は皆、尊敬していたものです。パイオニアで、多くの選手がメジャーリーグへ挑戦する道を切り拓きました。本当に良くやりました。」とお祝いのメッセージが届きました。

最後に、殿堂入りされた方々とゲストスピーカーなどを交えた記念撮影を行いました。新聞社・テレビ局などの報道陣は当館において約100名、豊岡市でも約60名に及ぶ報道関係者にお集まりいただき、熱気あふれる中記者発表は無事に終了いたしました。



後列左より 東尾 修氏、金田 正一氏、井原 敦理事長、本村 政治氏
前列左より 秋山 幸二氏、佐々木 主浩氏、相田 暢正氏

競技者表彰委員会

プレーヤー表彰は昭和から平成へ

殿堂ホールも昭和から平成へ。新しい時代の到来を感じる。第54回競技者表彰委員会は、プレーヤー表彰で日米通算201勝を挙げた野茂 英雄氏、通算437本塁打と303盗塁をマークした秋山 幸二氏、日米通算381セーブを挙げた佐々木 主浩氏の3人を野球殿堂入りに選出した。

現役を引退してから5年が経過し、かつ引退から21年未満の有資格者の中から幹事会が選んだ22人の候補者。野球報道に関して15年以上の経験を持つ329人の委員のうち324人から最大7人連記の投票があり、トップで当選したのは得票率82.4%にあたる267票を獲得した野茂氏だった。

年号が昭和から平成に変わった1989年のドラフトで史上最多の8球団から1位指名を受け、新日鉄堺から近鉄に入団。独特のトルネード投法で1年目から18勝8敗、防御率2.91と活躍し、最多勝、最優秀防御率賞、MVP、新人王、沢村賞とタイトルと賞を総なめ。'95年に太平洋を渡ってドジャース入りし、いきなり13勝6敗、防御率2.54の成績を残して新人王に輝いた。



野茂 英雄氏

日米間にポストティングシステムが存在しなかった時代。大リーグに挑戦する際は批判もあったが、元ジャイアンツの村上 雅則氏から29年間に渡って閉ざされ



野茂 英雄氏の記者会見のようす
(写真提供：スポーツニッポン新聞社)

ていた扉をこじ開けた。メジャー7球団でプレー。ア・ナ両リーグでノーヒットノーランを記録した。

自らオーナーを務める「NOMOベースボールクラブ」主催のイベントのため野球殿堂博物館で行われた記者発表には出席できなかったが、兵庫県豊岡市の城崎温泉でメディアに対応。「本当に驚いています。投票する人が記者さんということで、現役時代、記者さんとはあまり仲良くなかったので…」と話したが、その足跡は高く評価された。

'60年のヴィクトル・スタルヒン氏、'94年の王 貞治氏に次いで史上3人目となる候補初年度の殿堂入り。'68年8月31日生まれで、昨年10月28日に老衰のため93歳で亡くなった川上 哲治氏の45歳8カ月を抜く45歳4カ月、史上最年少の殿堂入りとなった。

野茂氏が切り開いた道に乗って日米で活躍したのが、候補4年目で78.7%にあたる255票を獲得した佐々木氏だ。野茂氏と同じ平成元年、'89年のドラフト1位で横浜大洋(現DeNA)に入団。野茂氏の抽選に敗れての外れ1位だった。

絶対的な守護神として'98年、横浜の日本一に貢献。FA権を行使して'00年にマリナーズへ移籍した。1年目からクローザーを務め、当時のメジャー新人記録となるシーズン37セーブをマーク。「DAIMAJIN」は新人王に輝いた。

'68年2月22日生まれ。45歳10カ月での殿堂入りは野茂氏、川上氏に次いで3番目となるが、日本のプロ

競技者表彰委員会



佐々木 主浩氏

野球と大リーグの両方を経験した選手として初の榮譽という点では野茂氏と同着。記者発表では、野茂氏が出場したソウル五輪（'88年）の日本代表チームが東北福祉大で練習した際に打撃投手を務めたエピソードを披露し、「あのときの日本のエースと一緒に選ばれて非常にうれしい」と喜びを語った。

秋山氏は有効投票数の79.3%にあたる257票を獲得し、候補7年目での殿堂入りとなった。「まだ早いよ」



秋山 幸二氏

と言いながら3人中最年長の51歳である。熊本県の八代高から'81年、ドラフト外で西武に入団。'85年から3年連続40本塁打をマークする一方、走っても高い身体能力を発揮した。

昭和の時代から走攻守三拍子揃った外野手として鳴らしたが、プロ野球史上5人目となるトリプルスリー（打率・301、31本塁打、31盗塁）を達成したのは平成元年となる'89年。翌'90年には51盗塁で盗塁王に輝いた。

'93年に3対3のトレードでダイエー（現ソフトバンク）に移籍。小久保 裕紀（現侍ジャパン監督）、松中信彦ら若手を背中で引っ張り、'99年のダイエー初優勝に貢献した。現在はソフトバンクの指揮を執っており、現役監督の殿堂入りは'11年の落合 博満氏（現中日GM）以来。記者発表では3年前に他界した母ミスエさんに触れ「野球を始めたきっかけはおふくろ。プロに入ってから凄く身近で応援してくれたし、喜んでいると思う」としみじみ語った。

エキスパート表彰は残念ながら当選者が出なかった。昨年秋の表彰規程改定で、候補者を10人から20人以内、連記できる候補者の数を3人から5人以内に拡大。表彰委員も従来の殿堂入りしている皆さんと表彰委員会幹事に、野球報道30年以上の記者を加えて97人から投票があったが、最多得票は平松 政次氏の50票で、有効投票数の75%にあたる当選必要数73票に届かなかった。

2年ぶり3度目となる選出者なし。候補者を規程枠最大の20人選んだため票が割れた感もあるが、注目すべきは榎本 喜八氏だ。「大毎ミサイル打線」の一翼を担い、通算2314安打を放った天才打者。'78年に競技者表彰の候補になりながらも2票しか得られず、1年限りで候補から外れていた。今回、枠の拡大に伴い、埋もれた存在を掘り起こす作業の中で名前が浮上。表彰委員会幹事会全会一致で候補に選んだ。その結果、平松氏に次ぐ2位の49票を獲得。改めて候補者選定の重さと責任を痛感した。

プレーヤー表彰は平成の時代を迎えたとしても、エキスパート表彰では昭和を風化させてはならない。

写真提供：ベースボール・マガジン社
（競技者表彰委員会代表幹事 永瀬 郷太郎）

特別表彰委員会

相田 暢^{ちやういち}一さんを想う

これほどまでにアマチュア野球一筋に初志を貫徹された相田 暢一先輩に、みんなで改めて心からの万歳を捧げたいと思います。

ご存命ならさぞかしお喜びのことと思いますが、暢一さんに代わり記者発表に出席されたご長男・暢正^{のぶまさ}さんの意を尽きたご挨拶には誰もが胸を打たれたものでした。



北海道は小樽中学から早稲田大学を志された相田さんは、まさに“白”顔の美少年。雪深いなかでの野球の遅れを取り戻すべく懸命に励まれたことと思います。しかし、頑張るほどに表情に苦痛を訴える様子が見られるようになったそうです。肩を痛められたのです。

恐らく限界まで頑張られたことと思いますが、肩の痛みは悪くなるばかりでした。投手ばかりが野球部に必要ではないと周囲に諭され、意を決してほどなくマネジャーへの転身を計られたようです。まさに雨にも負けず風にも負けず、相田さんはこのときから迷うことなく裏方に徹されたようです。

見習いの低学年のマネジャーから学年が進むにつれて、以前とは違った形での野球愛に目覚める格好となり、日々新たなマネジャーとしての仕事は日増しに多忙を極める状態でした。

マネジャーのみならず控え選手の面倒から、やがては飛田翁（穂洲・1960年野球殿堂入り）に命ぜられ学生監督まで引き受けられる始末でした。

卒業後30年以上にわたって東京六大学野球連盟の運営に大きく貢献され、さらには理事、審判員として活躍され、とくに審判技術顧問として審判員一同の技術向上に努められたことです。ご自身は神宮球場での六大学野球連盟の審判員として活躍されたばかりか、甲子園の高校野球、後楽園の都市対抗野球など広く活動されたものです。

特筆されるべき相田式ジャッジのスタイルは、鏡とにらめっこしながら考案されたもので、具体的にいえば主審のとき、両足を前後に構えられ、ストライクのコールには右手を激しく、勢いよく前に振り出すと同時に大声でコールされる独特のスタイルでした。真似のしにくいフォームはまさに“相田式”。今も懐かしく耳に響きます。昭和の生んだ名審判の一人といえるでしょう。

監督・コーチ、もしくはプレーの当事者の抗議に際しても、わかりやすい言葉で的確に、手短かに説明を加えられました。ゆえに“ルールの大御所”とも称されたものです。

表面上のルールばかりでなく、ルールの真意にまで精通されているのは、基本的な規則のすべてを選手として、審判として体得されておられたからであろうと思います。相田さんに係っては、規則書をズボンのポケットにしのばせて抗議をする監督たちも、なすすべなく退散です。だからこそ全国に相田式フォームを真似たい審判がどれほどいたかわかりません。しかし、フォームの真似はできても、野球の裏側の難しいルールが教える真意をくみ取るのは容易ではありません。

相田さんは特別表彰委員会の14委員の満票で選出されました。

競技者表彰の野茂 英雄氏、秋山 幸二氏、佐々木 主浩氏の3氏とともに晴れて殿堂入りする相田さんに、改めて敬意を表したいと思います。

写真提供：ベースボール・マガジン社
(特別表彰委員 有本 義明)

「表彰委員会規程」改正について

館長 廣瀬 信一

「表彰委員会規程」は1959年野球体育博物館開館時に制定され、その後時代の変化に対応して、条文の改正が行われてきました。これまでの規程は、2007年に改正施行されたもので、一昨年あたりから、幹事会などで運用面において課題を指摘されてまいりました。

今回、改正施行から5年が経過し、館名を「野球殿堂博物館」に変更し、殿堂事業にさらに注力していくため、「表彰委員会規程」の見直しを実施いたしました。

まず、見直しを進めるうえで昨年1月29日に「表彰規程改正小委員会」を発足いたしました。メンバーは、競技者表彰委員会代表幹事の永瀬 郷太郎氏、特別表彰委員会委員の池田 哲雄氏、当館元理事の下田 邦夫氏そして私の4名で、事務局として当館の職員数名が参画いたしました。昨年12月まで、原則月1回の会議を開催いたしました。途中10月開催の理事会で一部変更が承認されました。

《競技者表彰プレーヤー表彰の変更点》

プレーヤー表彰の変更点は、「得票率が有効投票数の3%未満の場合は、次年度以降プレーヤー表彰の候補者となることはできない」点です。従来は、有資格初年度だけに適応していましたが、今後は得票率が3%未満の場合は、次年度以降候補者に選出されないという規程になりました。例年、有効投票数が約300ですので、その3%未満、即ち一桁台の得票数では翌年以降プレーヤー表彰の候補者になれないということです。

《競技者表彰エキスパート表彰の変更点》

エキスパート表彰の変更点は、大きく分けて3点あります。

まず、第一点は「委員」についてです。従来は、プレーヤー表彰で殿堂入りされた方とプレーヤー表彰委員の中から、互選による十数名の幹事の合計約50名でしたが、今回より特別表彰で殿堂入りをされた方、また競技者表彰委員で野球報道年数30年以上の方（約50名）を新たに加え、総勢約110名となり、委員の数はほぼ倍となりました。

第二点は、プロ野球の審判員の扱いです。プロ野球の審判員はエキスパート表彰の対象者でしたが、プレーヤーと同じ土俵で評価をするのは難しいという意見が多く出され、今回から特別表彰へ移行いたしました。

第三点は、候補者の人数と投票記名人数の変更です。従来は、候補者の人数は10名以内でしたが、有力な候補者が増えたため、候補者枠を20名以内に、また記名人数も3名以内から5名以内に変更いたしました。

《特別表彰の変更点》

特別表彰部門では、プロ・アマ問わず、「日本の野球の普及発展に顕著な貢献をした者又はしつづめる者」という条文を新たに設けました。これは、プロ・アマで活躍した選手や監督、また球界を支えていた方など広い観点から日本野球の発展に貢献した方々を候補者にするためです。

以上、改正点について説明しましたが、今後も時代の変化に対応した規程にするため、引き続き「表彰規程改正小委員会」で研究、検討をしていく予定です。

殿堂入りの人々を語る (42)



1980年野球殿堂入り
千葉 茂氏レリーフ

じいじの思い出

桐山 菜苗 (1980年野球殿堂入り 千葉 茂氏 長女)

2002年12月9日初雪の朝のことでした。突然、父が亡くなったとの連絡。どういふことかわからないまま実家へ急ぎました。眠っているかのよう、いくら呼んでも目を覚ましません。父の偉大さを知ったのは、恥ずかしながらそれからでした。

父の死が新聞に載り、たくさんの方々が葬儀に来てくださりました。今こうして思い出話を書いていることを父はきっと、大丈夫か!!と心配していることでしょう。いつも私にメモを残すときは原稿用紙でした。父はそんなに原稿を書くことが多かったのでしょうか。文才があったのでしょうか。

父は私が生まれた年に引退をしていますので、現役時代を私は知りません。幼い時の父の思い出、なぜか昼夜逆転の生活。夕方になると出かけて行き、朝私が学校に行く時分はまだ睡眠中、いったい何の仕事をしているのかしら? 休みの日には庭でキャッチボールの練習、やれフライだの、腰を落としてゴロを拾えだの、そしてなぜか門の外には大勢の見物人。不思議でなりません。小学校の最初の父親参観日には、サイン攻めにあっている父。参観後の父親野球大会で父がバッターボックスに立った時の大歓声! いったい父は何者? それがはっきり解明できたのは、小学校も高学年になってからでしょうか。どうやら野球選手だったらしい、それも結構有名だったらしい。それほど、家では野球の話はしなかった、ということでしょう。

私も成長し、生活形態も父に近づきました。大学時代、後楽園球場でアルバイトをしていたことがあります。ところが、ある日配置換えを申し渡されました。理由は当時ラジオの解説をしていた父が、私の仕事振りばかり気になって解説に集中できないから。意外に過保護、でしたね。見かけによらず、小心者だった父は私のことでは、オロオロ、バタバタすることも多かった…。それだけ私を守りたかったのだと思います。本当に愛され、大事にしてもらいました。時にはやりすぎでしたが。ただ結婚後は一歩引いて見守るように努力をしていたようです。孫が生まれた時は、見たことがないような盛装で病院にきました。新調したスーツにネクタイ、孫の初対面に備えていたそうです。当時のクロマティ選手に聞いたとかで、ベビーパウダーだらけの赤ちゃんにしたこともありました。

晩年は松山に足繁く通い、オールスターの開催に尽力していました。故郷の松山が大好きで、高校野球の松山商業の試合は正座して観戦するほどでした。松山にあるお墓には多くのかたがお参りしていただいているようで大変ありがたく、父も喜んでいてと思います。

父がいなくなった後、気づきましたが、玄関のコート掛けに真新しいバーバリーのコートがありました。見かけによらずオシャレだった父、新しいコートを着て、まだまだ野球に携わって生きていきたかった気持ちが伝わってまいりました。一生、好きな野球のために尽くすことができたこと、今の時代はなかなか難しいことのようにですが、本当に幸せだったと思います。これからも巨人がんばれ! と天国から応援していることでしょう。

野球殿堂博物館 トピックス (2013年10月中旬～12月編)

【10月16日】

ジャッキー・ロビンソン氏夫人に写真贈呈！

ジャッキー・ロビンソン氏の妻のレイチェルさん(91歳)に対し、1956年(昭和31年)の日米野球(読売新聞社主催)



で夫妻そろって来日した際に撮影された記念写真を贈呈しました。レイチェルさんは、ロビンソン氏の実話を映画化した「42 世界を変えた男」のPRのため来日され、この日は巨人対広島戦の観戦に、東京ドームを訪れていました。写真は、当館所蔵の1956年日米野球記念アルバム(読売新聞社製作)から複製したものです。

【11月22日】 ジャイアンツ新入団選手が来館！



読売ジャイアンツの新入団選手8名が来館しました。小林誠司選手(日本生命)ら8名の選手たちは、当館の外にある戦没プロ野球人の名前が刻まれた「鎮魂の碑」を訪れた後、館内の展示や野球殿堂を見学しました。

【12月20日】 日本人初のMLBワールドシリーズ公式記録員・田代 学氏が来館！

田代氏(サンケイスポーツ)は、MLBワールドシリーズのレッドソックス対カーディナルス第1、2戦で、日本人として初めて公式記録員の一人となりました。当館では、MLBより第2戦(10月24日)のスコアカードをご寄贈いただき、野球の歴史コーナーで展示中です。



田代氏(右)と廣瀬館長

博物館からのお知らせ

▶ 役員等の交代

新任 理事長 井原 敦氏 (NPB事務局長)

退任 理事長 加藤 良三氏
理事 下田 邦夫氏
評議員 井原 敦氏

▶ 販売中

● オリジナルポストカード(5枚セット) 500円(税込)

(セット内容)

- ・ 殿堂ホール
- ・ イベントホール
- ・ アマチュア野球のコーナー
- ・ 野球の歴史のコーナー
- ・ 博物館入口
- ・ 博物館オリジナル封筒



● キーホルダー 500円(税込)

硬式ボールの牛皮を使用した、オリジナルのキーホルダーです。

素材：牛革貼合

サイズ：100mm×40mm

着色：グリーン

箔押し：金色



● 博物館のご案内

場 所 東京ドーム21ゲート右

開館時間 3月1日～9月30日 AM10時～PM6時(入館は閉館の)

10月1日～2月末日 AM10時～PM5時(30分前まで)

入館料 大 人 500円(300円) ()は
小・中学生 200円(150円) } 20名以上の団体
65歳以上 300円

休館日 月曜日(祝日、プロ野球開催日、春・夏休み中の月曜日は開館)
年末年始(12月29日～1月1日)

《2月・3月・4月の休館日》

2月 3日・10日・17日・24日

3月 3日・10日・17日・24日

4月 7日・14日・21日・28日

● 編集後記 今回は野球殿堂入り記者発表、表彰規程改正などがメインの記事となりました。紙面の都合で「コラム 博覧/博楽」、「知ってほしいこんな資料」、「こんにちには図書室です」は休載します。

野球殿堂博物館 Newsletter 第23巻 第4号

2014年2月4日発行(年4回発行)

編集・発行 公益財団法人 野球殿堂博物館
(旧・財団法人 野球体育博物館)

〒112-0004 東京都文京区後楽1-3-61

Tel 03(3811)3600 Fax 03(3811)5369

http://www.baseball-museum.or.jp/



The Baseball Hall of Fame and Museum

公益財団法人 野球殿堂博物館

リレー随筆 (55)

高校野球

競技者表彰委員会幹事 川上 克秀 (共同通信社)

高校野球は大好きだが、学生時代は夏の甲子園が大詰めになるといつも憂鬱な気分になっていた。その理由は後述するが、少し昔話を書かせていただきたい。30年前、1983年の夏の話。当時、私は大学4年生で野球部のマネジャーだった。

現在は選手の選び方も実施される試合も違うが、夏の甲子園大会が終わると、当時は優勝校を中心に高校日本選抜チームを組み、韓国や米国に遠征したり、韓国チームを招待して親善試合を行っていた。1983年は「KKコンビ」と呼ばれる桑田 真澄、清原 和博の1年生コンビの活躍で中村 順司監督率いるPL学園(大阪)が、前年の夏から3季連続優勝を狙った池田(徳島)を準決勝で下し、5年ぶりの優勝を果たした。

高校選抜チームには桑田投手をはじめ、池田のエースだった水野 雄仁、中京(現中京大中京)の野中 徹博投手や横浜商・三浦 将明投手、仙台商・萩原 満投手、市尼崎・池山 隆寛内野手、岐阜一・林 哲雄内野手らその後、プロに進むそうそうたるメンバーが含まれていた。

当時、高校野球は凄まじい人気を誇っていた。早実高1年だった1980年に夏の甲子園で準優勝し「大ちゃんフィーバー」を巻き起こした荒木 大輔投手や「やまびこ打線」と呼ばれた強力打線の中心だった水野、そして桑田、清原というスーパースターが立て続けに出ていたからだ。

選手はまさにアイドル並で、サインをもらおうとしたり、写真を撮ろうとする女性ファンが宿舍周囲を取り囲む有様だった。選抜メンバーは宿舍から一歩たりとも出ることは許されなかった。たまたま窓から顔をのぞかせたある球児がファンに見つかり、そこから悲鳴に似た歓声が上がり、ファンが一斉にその窓が見える場所へ移動。車と接触してあわや事故になりかけたこともあった。それ以降、窓のカーテンも閉じられた。17、18歳の高校生にとってうれしくもあり、つらい集団生活だったと思う。

私の立場はというと、そんな不自由な集団生活を強いられているスター球児と同宿して、彼らの代わりに買い物をしたり、ファンからのプレゼント受け渡し中継役を引き受けたり、練習を手伝ったりしていた。大学が所属するリーグの事務局が日本高野連のビルに間借りさせていただいていた関係もあり、日頃のお礼も兼ねてのご奉公だが、上級生になって高校生に使われるのは正直言って心躍るものではなかった。

印象深い選手は桑田と水野。桑田はただ一人の1年生だったこともあり、無口でおとなしい少年だった。丸坊主からスポーツ刈りにするため、私の運転で散髪屋に行った。後に巨人を担当した際に話したが「行ったことは覚えていますけど、誰と行ったかまでは…」とすっかり忘れられていた。あのとき、桑田のその後の野球人生を予測し、もう少し目をかけていれば、私のスポーツ記者人生も変わっていたのでは、と少し後悔した。

最も親しかったのは水野だった。優勝した前年も2年生で選抜メンバーに選ばれており、私とも顔見知り。選抜メンバー集合の時、再会した私に「川上さん、お久しぶりです」と人懐っこい笑顔を浮かべて握手してきたのは今でも覚えている。勝手知ったる“不自由生活”でエンジョイする方法も心得ていた。アイドル扱いされて自分を見失っている部分も垣間見えたが、こと野球に関しては純粹だった。水野とはそれ以来のつきあいで時々連絡する仲だ。昨年10月26日、久しぶりに水野のうれしそうなお声を聞いた。母校が秋季四国大会で決勝に進出し春の選抜大会出場を確実にした日だった。名将・蔦 文也監督が率い、水野の時代は無敵を誇った池田。長い低迷期を経てことし22年ぶりに甲子園に帰ってきた。「時代は違ってもうれしいですよ」。先輩の声は弾んでいた。